

innovation OSE

第11期中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
証券コード8697



株式会社大阪証券取引所

目次

会社概要	1
トップメッセージ	2
当中間期の主な取組み①(デリバティブ関係)	3～4
当中間期の主な取組み②(新興市場関係)	5～6
経営成績ハイライト/営業収益、営業利益、営業利益率	7
財務諸表の概況(貸借対照表及び損益計算書)	8
大証NYダウ先物取引及び日経平均VI先物取引について	9
社会貢献・環境保全への取組み	10

会社概要(平成23年9月30日現在)

社名	株式会社 大阪証券取引所
設立	昭和24年4月(創立:明治11年6月)
本社	〒541-0041 大阪市中央区北浜一丁目8番16号
東京支社	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号
資本金	47億23百万円
従業員数	324名
役員	代表取締役社長 米田道生
	取締役 藤倉基晴
	取締役 松本学
	取締役 山澤光太郎
	取締役 狩野芳徳
	取締役 奥田務 <small>※</small>
	<small>(J.フロントリテイリング株式会社 代表取締役会長兼最高経営責任者)</small>
	取締役 川村雄介 <small>※</small>
	<small>(株式会社大和総研 専務理事)</small>
	取締役 川本裕子 <small>※</small>
	<small>(早稲田大学大学院ファイナンス研究科 教授)</small>
	取締役 堺屋太一 <small>※</small>
	<small>(作家)</small>
	取締役 佐々木茂夫 <small>※</small>
	<small>(弁護士)</small>
	取締役 森本滋 <small>※</small>
	<small>(同志社大学大学院司法研究科 教授)</small>
	常勤監査役 金田尚武
	監査役 岩城裕 <small>※</small>
	<small>(弁護士)</small>
	監査役 中務裕之 <small>※※</small>
	<small>(中務公認会計士・税理士事務所 公認会計士・税理士)</small>

※印は社外取締役であります。

※※印は社外監査役であります。



株主の皆様へ

平素より、当社への格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社第11期中間報告書(平成23年4月から平成23年9月)をお届けし、当中間期の取組み及び業績を報告させていただきます。

まず、当中間期における主な取組みですが、本年7月19日に、株価指数先物・オプション取引に係るイブニング・セッションの取引時間を延長し、新たにナイト・セッションをスタートさせました。

このナイト・セッションにより、ロンドン市場の取引時間を全てカバーし、また、ニューヨーク市場の取引時間をおおむねカバーしたことになり、売買立会終了後の経済情勢に係るニュースや海外市場の動向に応じた取引機会の提供を実現しました。なお、ナイト・セッションは、本年9月には対日中比で37.9%を占めるまでに成長しました。

また、大証FXにおいて、本年4月4日に2銘柄を追加したこと及びプロモーション活動や投資家セミナー等を通じて認知度向上に取り組んだことにより、本年8月に、月間取引高は120万単位を突破し、過去最高を記録しました。

新興市場においては、ヘラクレスとジャスダックの市場統合による新JASDAQが発足してから1年が経過しましたが、東日本大震災の影響等もあり、新興市場再生への道のりは依然として険しい状況にあります。しかしながら、新規上場会社数が既に昨年を上回り、年末までには昨年比で1.5倍の15社が視野に入るなど、一部で明るい兆しも見られます。今後もJASDAQアナリストレポート・プラットフォームや上場会社IR活動の支援を通じて、新興市場の再生に取り組んでいきます。

さらに、今冬には、大証NYダウ先物取引及び日経平均V I先物取引の導入を予定しており、トピックとして取り上げましたので、是非ご覧下さい。

次に、業績についてですが、営業収益が113億81百万円となり、純利益は30億71百万円となりました。

今後も、「デリバティブとJASDAQを中心に、日本経済・マーケット全体に貢献し、グローバルに存在感のある総合的な取引所」を目指し、更なる企業価値の向上を図るべく、全力で経営に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成23年11月



代表取締役社長
米田 道生

Derivatives

1 株価指数先物・オプション取引に係る取引時間の延長

投資家の取引ニーズに応えるため、本年7月19日に、日経225先物・オプション取引、日経225mini等の株価指数先物・オプション取引のイブニング・セッション※の取引時間を当日の午後11時30分から翌日の午前3時まで延長し、新たにナイト・セッションをスタートさせました。

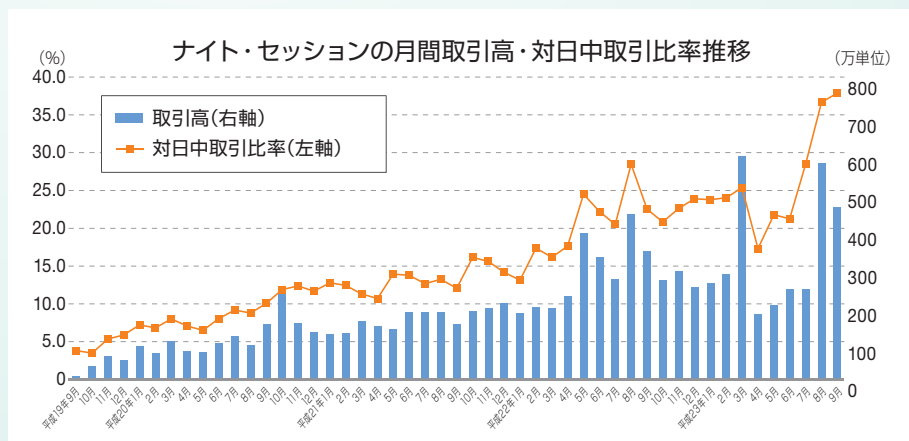
※イブニング・セッションは、平成19年9月に午後4時30分から午後7時までの取引時間でスタートし、平成20年10月に取引終了時間を午後8時まで、また、平成22年7月に取引終了時間を午後11時30分まで延長しました。

平成23年7月19日
デリバティブの
ナイト・セッション
スタート

翌日午前3時まで

メリット

- ①夜間における国内又は海外の経済情勢の変化に応じた取引が可能
- ②海外市場の動向に応じた取引が可能
- ③国内外のOTC市場での現物売買等に対するヘッジ取引のニーズに対応



※株価指数先物取引及び株価指数オプション取引が対象
※本年7月19日以前はイブニング・セッションのデータを集計

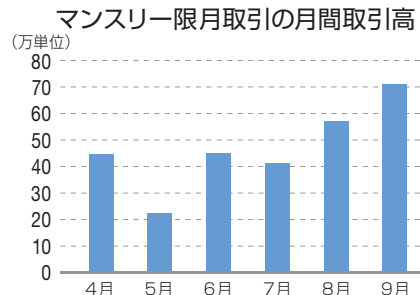
平成23年9月
対日中取引比

37.9%を記録

2 日経225miniのマンスリー限月取引が順調に拡大

投資家の取引ニーズに応えるため、本年2月のデリバティブ売買システム(J-GATE)の稼働に合わせ、日経225miniにおけるマンスリー限月取引をスタートさせており、取引は順調に拡大しております。

マンスリー限月取引とは、3月、6月、9月及び12月以外の月を取引最終日とする取引であり、直近限月が3月の場合は、従来の3月及び6月に加え、新たに4月、5月及び7月を限月とする取引が可能となりました。これにより、日経225オプションの限月に合わせた取引が可能となり、市場の利便性が向上しました。



3 大証FXにおける振興策

FXの分野において、次の取組みを行ったこと等により、大証FXの取引高が順調に拡大し、本年8月には、取引高が120万単位を突破し、過去最高を記録しました。

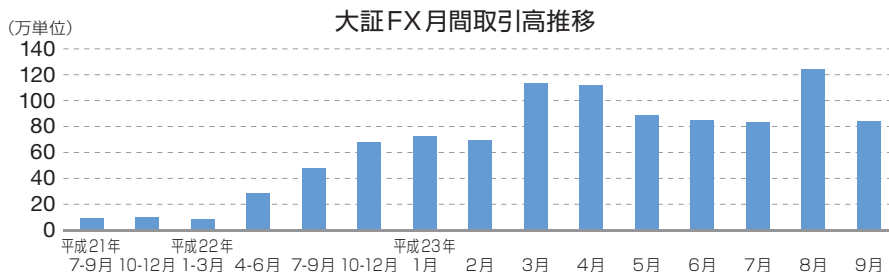
大証FXの主な取組み

- ① 商品の拡充(本年4月4日に、南アフリカランド/日本円、豪ドル/米ドルの2銘柄を追加)
- ② 参加者との共催によるプロモーション活動の実施(今上半期2回開催)
- ③ 投資家セミナーの開催(今上半期6回開催)
- ④ 大証ホームページにおけるFXコラム・レポート等の掲載(今上半期12回実施)

平成23年8月

取引高

120万単位突破



JASDAQ

上場会社の情報発信強化に向けた取組み ～JASDAQアナリストレポート・プラットフォーム～

JASDAQ上場会社向けのアナリストレポート発行・流通支援サービスとして、昨年10月より導入した本サービスは、この1年間でレポート発行数が70本を超え、本年6月にはスマートフォン・タブレット端末向けレポート閲覧アプリをリリースしました。また、本年10月より従来の年2回のレポート発行に加え、四半期毎の決算にレポートを発行する四半期対応コースも追加し、上場会社の情報発信強化を支援しています。

メールマガジン・Twitterを活用した情報発信

個人投資家が、より手軽にJASDAQ市場に関する情報を受信できるよう、メールマガジンやTwitterを利用した情報発信を行っております。JASDAQアナリストレポート・プラットフォームで発行されるレポートやIRムービーの新着情報、イベントの開催告知や当社ホームページで公表されている様々な新着情報等を取得するツールとして活用していただけます。



CI(Corporate Intelligence)の導入

当社は、NASDAQ OMX Group, Inc. が世界の上場会社向けに提供しているCIを導入しました。

CIとは、IR・広報担当者が、株主・財務状況等を競合他社と比較し、自社のIR活動をより効果的・戦略的に進めるための様々な機能が統合された利便性の高いプラットフォームであり、世界中の上場会社の株主情報、マーケット情報及び幅広いレポート機能等を実装しているため、競合他社の分析、投資家ニーズの把握及び投資家との効果的なコミュニケーション等が可能となります。

レポート発行本数
70本以上
アナリストレポート
ダウンロード数
約**25,000**件
平成23年9月30日現在

投資家に向けた
多様な情報配信

上場会社IR活動の支援①

上場会社の個人投資家に対するIR活動を支援するため、個人投資家向けの合同IR説明会を開催しております。

東京地区での開催のほか、本年8月には、広島地域で合同IR説明会を開催いたしました。

その他、上場会社の決算説明会の開催支援サービス「OSE インベスター・コンファレンス」を開催しております。



JASDAQ Value IR Square in 広島

上場会社IR活動の支援②

国際特許事務所が主催する技術IR説明会の後援を行っております。技術IR説明会とは、上場会社の事業説明に加え、特許事務所から上場会社の持つ技術・特許について、評価・解説するという、「技術力」にフォーカスを当てた新しい形態のIR説明会です。本年7月に第2回の説明会を開催し、多数の機関投資家・アナリスト等の皆様にご参加いただきました。



第2回 技術IR説明会

JASDAQ-TOP20の認知度向上

当社は、新JASDAQのスタートにあわせ、昨年10月から、JASDAQを代表する20銘柄で構成された株価指数「JASDAQ-TOP20」の配信をスタートし、昨年12月には、JASDAQ-TOP20に連動するETFを上場しました。

今後も、JASDAQ-TOP20の認知度向上に努め、JASDAQ市場の投資利便性向上に取り組んでいきます。

JASDAQ Value
IR Squareの
開催

技術に
フォーカスした
新形態のIR

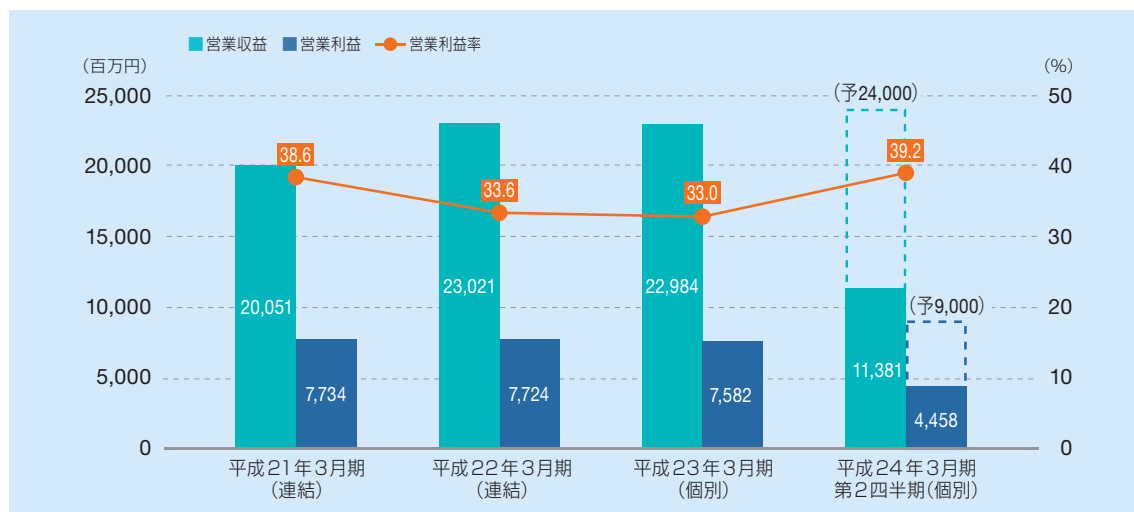
JASDAQ-TOP20
JASDAQを代表する
20銘柄で構成

経営成績ハイライト

	平成21年 3月期(連結)	平成22年 3月期(連結)	平成23年 3月期(個別)	平成24年3月期(個別)		
				通期予想	第2四半期実績	進捗率
営業収益(百万円)	20,051	23,021	22,984	24,000	11,381	47.4%
営業利益(百万円)	7,734	7,724	7,582	9,000	4,458	49.5%
経常利益(百万円)	9,444	9,160	8,453	9,500	4,969	52.3%
当期純利益(百万円)	6,372	6,298	9,156	6,000	3,071	51.2%
1株当たり年間配当金(円)	8,500	9,000	10,500	9,000	4,500	—
純資産(百万円)	46,396	48,429	52,858	—	54,296	—

※平成21年3月期第4四半期及び平成22年3月期はジャスダック証券取引所を連結子会社としていました。平成22年4月1日の同社合併により、平成23年3月期から大阪証券取引所単体の個別会計へと変更になりました。その結果、平成23年3月期については、個別会計上の会計処理として約20億円が特別利益として当期純利益に含まれており、また、ジャスダック証券取引所の繰越欠損金を引き継いだこと等により、法人税等の額が大幅に減少しています。

営業収益、営業利益、営業利益率



財務諸表の概況(貸借対照表及び損益計算書)

四半期貸借対照表

(単位:百万円)

区分	前事業 年度 (平成23年 3月31日)	当第2 四半期 会計期間 (平成23年 9月30日)	増減
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	27,423	34,926	7,502
営業未収入金	3,055	1,764	△1,290
有価証券	1,514	510	△1,004
前払費用	116	129	13
取引証拠金特定資産	552,869	326,895	△225,973
清算預託金特定資産	59,176	61,125	1,948
繰延税金資産	325	325	—
未収還付法人税等	1,754	—	△1,754
その他	490	178	△312
貸倒引当金	△29	△13	16
流動資産合計	646,697	425,842	△220,854
固定資産			
有形固定資産			
建物(純額)	1,188	1,136	△52
構築物(純額)	0	0	△0
情報システム機器(純額)	2,219	2,075	△144
工具、器具及び備品(純額)	159	141	△18
土地	98	98	—
リース資産	21	18	△2
建設仮勘定	—	173	173
有形固定資産合計	3,689	3,645	△43
無形固定資産			
ソフトウェア	6,747	6,065	△682
ソフトウェア仮勘定	9	788	779
その他	17	17	0
無形固定資産合計	6,774	6,871	96
投資その他の資産			
投資有価証券	2,148	2,111	△37
従業員に対する長期貸付金	20	19	△0
長期前払費用	475	423	△51
長期預金	8,000	8,000	—
差入保証金	312	306	△5
信認金特定資産	398	389	△9
繰延税金資産	2,269	2,279	9
その他	83	83	△0
貸倒引当金	△58	△58	—
投資その他の資産合計	13,650	13,555	△94
固定資産合計	24,114	24,072	△41
資産合計	670,811	449,914	△220,896

※記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。△はマイナスであります。

四半期損益計算書

(単位:百万円)

区分	前第2四半期 累計期間 (自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日)	当第2四半期 累計期間 (自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日)	増減
営業収益			
参加者料金	6,558	6,568	10
上場賦課金	1,027	888	△138
機器・情報提供料	3,489	3,881	391
その他	36	42	6
営業収益合計	11,111	11,381	270
販売費及び一般管理費	6,991	6,922	△69
営業利益	4,119	4,458	339
営業外収益			
受取利息	356	268	△87
受取配当金	53	49	△3
負ののれん償却額	155	155	—
その他	15	53	38
営業外収益合計	580	527	△53
営業外費用			
支払利息	6	10	4
その他	4	6	1
営業外費用合計	10	16	6
経常利益	4,689	4,969	280
特別利益			
投資有価証券売却益	6	0	△5
抱合せ株式消滅差益	2,013	—	△2,013
取引参加者過剰金	7	—	△7
特別利益合計	2,026	0	△2,025
特別損失			
事務所移転費用	89	—	△89
特別損失合計	89	—	△89
税引前四半期純利益	6,626	4,970	△1,656
法人税等合計	544	1,898	1,354
四半期純利益	6,082	3,071	△3,010

※記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
△はマイナスであります。

今冬、デリバティブに新商品が登場

当社は、本年2月に売買システムJ-GATEを稼働させました。これにより、他の競合取引所と十分に競争できる基盤が整ったことから、今後は、商品ラインナップを拡充することにより、投資家層の裾野を拡大し、国際的な競争力を強化します。その第1段として、次の2商品を上場します。

1 大証 NYダウ先物取引 ～海外の株価指数を対象とした商品～

投資家ニーズの多様化・高度化・国際化が進展している近年の我が国の状況を踏まえ、国内でも非常に知名度の高い「ダウ・ジョーンズ工業株平均株価」を対象とした先物取引を導入します。これは、本年7月に締結したCMEグループとの業務提携の成

果であり、今後も共同で商品開発、マーケティング及びプロモーション活動等を進めて参ります。

また、個人投資家のニーズが高い外国株指数関連デリバティブを今後も引き続き拡充していきます。

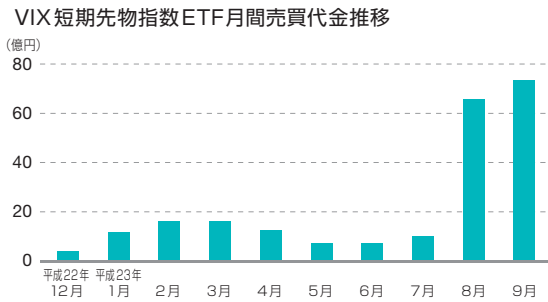
2 日経平均VI先物取引 ～ボラティリティーを対象とした商品～

リーマン・ショックやギリシャ・ショックなど、株価の急落が近年は毎年のように発生しています。このような中、国内外の機関投資家等の中で新たなヘッジ手段・投資手段としてボラティリティー指数に対する注目が高まっていることを踏まえ、「日経平均ボラティリティー・インデックス※（略称「日経平均VI」）」を対象とした先物取引を導入します。

また、本年には欧州債務問題や世界景気への不安を背景に、

当社に上場しているVIX短期先物指数ETF（VIXは米国のS&P 500指数に関するボラティリティー指数。）の取引高が増加し、注目を集めました。今後は日経平均VI先物取引を対象としたETFの組成・上場といった展開が期待できます。

※日経平均VIとは、投資家が予想している将来1か月間の日経平均株価の変動の大きさ（ボラティリティー）を指標化したもので、当社で取引されている日経225オプション取引の価格を利用して計算されています。



1 研修・見学

● 子どもと学ぶ金融・株式スクール

小学生及び中学生に楽しく金融・株式を学んでもらうため、大阪府金融広報委員会、日本銀行大阪支店、日本証券業協会証券教育広報センター関西支部、独立行政法人造幣局との共催で、「子どもと学ぶ金融・株式スクール」を開催しております。

● 大証デリバティブスクール

投資家の皆様にデリバティブを解り易く理解していただくため、大証デリバティブスクールを開催しております。毎回多くの投資家の皆様に参加していただいております。

● 大証マレット及びJASDAQ-OSEプラザの見学

証券市場をより身近に感じていただくとともに、証券市場に係る知識普及を目的として、大阪本社では大証マレット・展示コーナー、東京支社ではJASDAQ-OSEプラザ等の見学を受け付けております。

2 寄付講座

デリバティブ取引は、価格変動リスクの管理において、極めて有効なツールであり、その重要性は年々増しているにもかかわらず、デリバティブについての否定的なイメージが先行し、社会的な意義について正しい評価がなされていないため、大阪大学金融・保険教育研究センターに寄附研究部門を設置し、デリバティブ研究の水準向上に取り組んでおります。

3 地域活動への参画

● 桜の植樹活動への協力

「桜の会・平成の通り抜け」に賛同し、中之島の桜の植樹活動に協力。

● 地域美化運動への参加

堺筋の清掃活動に参加し、地域美化運動に協力しております。

4 環境保全

節電対策として次の対応を行っております。

- ・執務エリアの照明の間引き ・事務室照明のLED化
- ・未使用スペース及び昼休みの消灯
- ・夏期におけるエアコンの設定温度引上げ
- ・冬期におけるエアコンの設定温度引下げ

5 義援金及び募金

● 東日本大震災への義援金

3月11日に発生した東日本大震災による被災者の救援及び被災地の復旧に役立てていただくため、総額1億円の支援を実施しました。

● 桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金

東日本大震災で保護者を失った多くの孤児や遺児を支援するため、桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金に支援を実施しました。

● 募金活動への協力

NPO法人 全国盲導犬施設連合会の「盲導犬育成募金箱」及び財団法人 世界自然保護基金ジャパンの「WWF ジャパン 募金」の募金活動に協力しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会議決権行使株主 毎年3月31日 期末配当金受領株主 3月31日 中間配当金受領株主 9月30日 その他必要があるときは、取締役会の決議によりあらかじめ 公告いたします。
公告の方法	当社のホームページに掲載いたします。 http://www.ose.or.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由により当社のホームページ に掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
(郵便物ご送付先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
(電話ご照会先)	TEL 0120-094-777 (通話料無料) (受付時間：土・日・祝祭日を除く平日9:00～17:00)
上場証券取引所	株式会社大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)



株式会社大阪証券取引所

本社 大阪市中央区北浜一丁目8番16号 TEL(06)4706-0800
東京支社 東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号

<http://www.ose.or.jp/>

お知らせ

■未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

■株式に関する住所変更等のご照会及びお届出について

株式に関するお手続き(届出住所・姓名等の変更、配当金の振込方法・振込先の変更等)のご照会及びお届出につきましては、証券会社での口座開設の有無に応じて、以下のいずれかの窓口にご連絡ください。

【証券会社で口座を開設されている株主様】

・・・当該証券会社にご連絡ください。

【証券会社で口座を開設されていない株主様】

・・・住友信託銀行にご連絡ください(下記もご参照ください)。

■特別口座について

株券電子化に伴い証券会社に口座開設(ほふり)の手続きをなされていない株主様の所有株式につきましては、住友信託銀行に口座(特別口座)を開設し管理しておりますので、住友信託銀行にお問合せください。
株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意下さい。



この報告書は、再生可能な植物油インキを使用しています。